伊賀市教育研究センター
令和５年８月２４日　第３９４号

研修ニュース

〒518-0814　三重県伊賀市上友生 785 番地
TEL&FAX：0595（21）8839　　E-Mail：iga-ken@iga.ed.jp

研修講座　小学校外国語科・外国語活動②
「小学校と中学校をつなぐ英語の指導と評価～教科書を活用した言語活動を通して～」

【講師】　文教大学国際学部　教授　阿野　幸一先生

８月３日（木）、講師に文教大学国際学部の教授阿野幸一先生をお迎えし、研修講座「小学校外国語科・外国語活動②」を実施しました。

初めに、学習指導要領にも書かれているように「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせるために、文法や表現から学習に入るのか、「伝えたい！話したい！」といった動機づけから入るのか、どちらの視点に立っていますかという問いかけがありました。やはり言語活動を充実させるためにはいかに伝え合う機会を作るかと評価する場を作るかが鍵となることを学びました。

次に小学校と中学校をつなぐ英語指導について具体例をあげながらご指導いただきました。その具体例の１つをＣＡＮの単語で考えてみました。

①小学校では、Can you swim?に児童は、Yes I can．No I can’t．と答えますが、その結果○○さんは、～ができてすごい。と広がりが生まれる。つまり「慣れ親しむこと」が大切。
②中学校では、Can you swim?に生徒は、Let’s　go to shonan．You can swim there．と質問の意図を考えて答えるようになる。つまり、「場面を考えて使うことができるようになること」が大切。

このように同じ言語材料の繰り返し（リサイクル・スパイラル）でつないでいくということが大切であることを学びました。また、小学校と中学校で共通することとして「どんな時に、誰に、何のために伝えるか」「どうすれば伝わるのか」など目的、場面、状況を考えて必然性のある活動を授業に入れていくことが大切であることを改めて確認することができました。

最後に、中学校１年生の教科書本文を活用した模擬授業を中学校１年生になったつもりで体験しました。体験を通して、インタラクション、発表、ライティングを自分の力でやってみること、つまりアウトプットすることの大切さを身に染みて感じることができました。

アンケートより【一部抜粋】

・実例を挙げて分かりやすく説明いただいたので、中学校での指導について理解を深めることができました。中学校での指導について理解を深めることができました。中学校で学習することを知ることで、小学校で指導する大事なポイントに気づくことができました。（小）
・英語の授業で目指すべきものとして「必然性のある活動」「意欲を高める活動」を教師がいかに仕組み、子どもを育んでいくのか、その本質を改めて教えて頂けてとても満足のいく内容でした。（中）
・小学校英語の目標を再認識することができ、今後の授業でも心にとめながら取り組みたいと思います。特にイメージでの単語の認識、コミュニケーションを通してのツールとしての英語文法の認識等頭ごなしに「教える」のではなく、自然に子どもたちに身につけることができると思いました。（ＡＬＴ）